

金融機関	普通預金	住宅ローン
常陽銀行	年利0.001%	3~15年固定金利 0.1%引き下げ
筑波銀行		検討中
水戸信用金庫		検討中
結城信用金庫		検討中
県信用組合	年利0.001%	10年固定1.25%

(3月1日から)※26日現在

常陽銀は26日発表し、普通預金のほかに通知預金や納税準備預金、貯蓄預金の各金利も0.001%とする。100万円を1年間預けた場合の利息は10円(税引前)となる。

同行住宅ローンは固定3、5、10、15各年を対象に3月に更新される店頭表示金利から0.1%引き下げる。2月の店頭金利は固定3年が2・6%、同15年は3・4%だった。

常陽銀は26日発表し、普通預金のほかに通知預金や納税準備預金、貯蓄預金の各金利も0.001%とする。100万円を1年間預けた場合の利息は10円(税引前)となる。

同行住宅ローンは固定3、5、10、15各年を対象に3月に更新される店頭表示金利から0.1%引き下げる。2月の店頭金利は固定3年が2・6%、同15年は3・4%だった。

常陽銀は26日発表し、普通預金のほかに通知預金や納税準備預金、貯蓄預金の各金利も0.001%とする。100万円を1年間預けた場合の利息は10円(税引前)となる。

同行住宅ローンは固定3、5、10、15各年を対象に3月に更新される店頭表示金利から0.1%引き下げる。2月の店頭金利は固定3年が2・6%、同15年は3・4%だった。

(大平賢二・前島智仁)

日銀のマイナス金利政策を受け、常陽銀行(水戸市)と県信用組合(同)は、普通預金と住宅ローンの金利を3月1日から引き下げる。普通預金は現行0・02%から0・001%に引き下げる。ほかの県内金融機関は「検討中」としているが追随するとみられる。

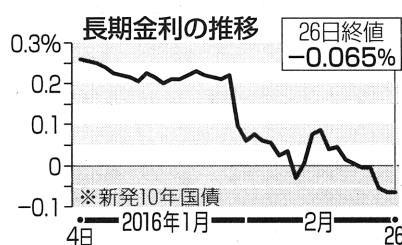
(3月1日から)※26日現在

県信組も普通預金0・001%に

常陽銀、金利引き下げ

連日で過去最低更新

長期金利、下げ幅拡大



長期金利の指標である新発10年債の26日の終値は、2月26日で-0.065%と、前回の-0.063%からさらに低下した。これは、2月9日に初めてマイナスを記録。2月以降は終値でマイナスが続く。

が、少しでも利益の得られる運用先として国債を買い求めていることが国債値上がり(利回り低下)につながっている。

市場金利の低下を受け、住宅ローンの金利を下げる銀行が地方を含め相次いでいる。大手では、三井住友信託銀行が固定型10年の最優遇金利を0・5%に引き下げるなどを発表した。

他方、金利の低下は預金利の引き下げを招いている。主に国債で運用している年金などの利回りが圧縮され、受取額が少なくなる心配もある。

預金や住宅ローンに波及

利回りがマイナスのローンの金利について、「引き下げるかどうかや決定時期は検討中」(筑波銀行広報室)の状況だ。ただ、全国的に見ても、新規の住宅ローンの金利は満期まで保有すれば損が出るが、買つた時よりさらに高い価格(さらに大幅なマイナス利回り)で日銀に転売することで利益を確保できる。マイナス

金利政策の下で利ざやの縮小に苦しむ銀行た。

26日の市場では、大坂取引所10年国債先物の中心限月である3月きりの終値は06銭高の152円09銭だつた。